

IV. e ラーニングについて

総合日本語プログラムでは、2011 年春学期より、インターネット上で利用できる日本語クラスの Courese Management System (CMS) である「e-IJLP」を導入し、各クラスでの授業の予習、復習、課題の提出に利用している。今回の調査では、導入から 1 年目の時点で学生にどれだけ認識、利用されているかと、今後の e ラーニング教材開発の資料にするために、コンピュータを利用した日本語学習のニーズを調べた。

31. 総合日本語 e ラーニング「e-IJLP」を知っているか

今回の回答者のほとんどは総合日本語プログラムの受講歴がある学生であったが、「知らない」と回答した学生が半数であった。

表 30 総合日本語 e ラーニングの認識

知っている	121
知らない	117
計	238

32. 総合日本語 e ラーニング「e-IJLP」の利用経験

調査時点では、e-IJLP は受講者のみアカウントを付与されて利用可能であり、また受講するクラスによって利用の仕方が異なる。全体的に利用したことのある学生は少ないことがわかる。

表 31 総合日本語 e ラーニング利用経験

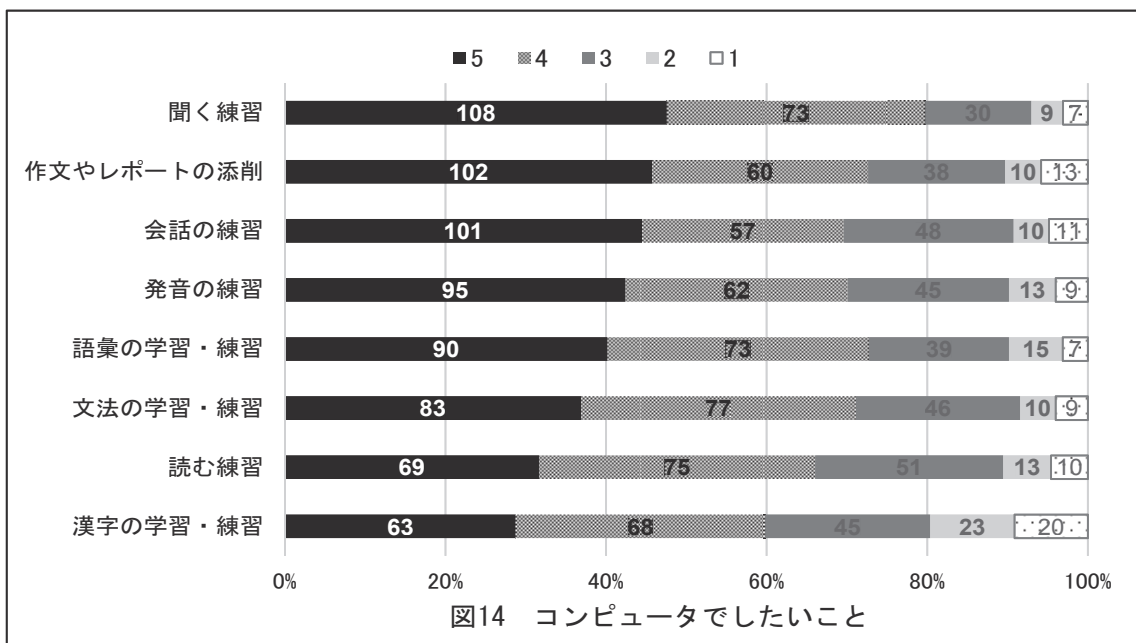
ある	89
ない	153
計	242

33. e ラーニングを使ってしたい日本語学習

コンピュータを使って日本語を勉強できるならどんなことがしたいかを、表 32 にある各項目についてそれぞれ 5 段階のリカートスケールで最も当てはまるものを選んでもらった。

表 32 コンピュータを使って勉強したいこと

したいこと	5:ぜひしたい	4	3	2	1:したいと思わない
聞く練習	108	73	30	9	7
作文やレポートの添削	102	60	38	10	13
会話の練習	101	57	48	10	11
発音の練習	95	62	45	13	9
語彙の学習・練習	90	73	39	15	7
文法の学習・練習	83	77	46	10	9
読む練習	69	75	51	13	10
漢字の学習・練習	63	68	45	23	20



上記項目の他に「その他」として、勉強したいことを記述する項目を設けたが、記述回答はなかった。

34. 総合日本語 e ラーニングについての意見（記述）

回答は、「学習者にとってすごく役に立ちます。ありがとうございました。」という記述が 1 件であった。